

2022 第 59 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 4 年 10 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部
〒285-0850

佐倉市西ユーカリが丘 5-12-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

養老溪谷・中瀬川遊歩道

水彩画 小菅 一弘

藤井正善さんがグレートヒマラヤトラバース (GHT) 第 2 ステージに参加!

千葉支部長 松田宏也

千葉支部の創立メンバーである藤井正善さん(75 歳) = 写真 = が今秋の GHT 第 2 ステージに参加します。2020 年の第 1 ステージは(松田が参加)カンチェンジュンガ周辺でしたが、今回はその続きでマカルー BC を経てナムチェバザールまでを踏査、期間は 10/1 ~11/26 の予定です。藤井さんは千葉工業大山岳部で 1970 年代より数多くの海外遠征を行い、その後も JAC の仲間と海外、国内の登山を続けてきました。ここ 10 年は仕事の関係でフィリピンに駐在していましたが、仕事の区切りもついたとのことで、一念発起して GHT 第 2 ステージ挑戦を決断したのです。若き頃からヒマラヤ通いを続け、そして今再びヒマラヤを目指す情熱と行動力には頭が下がります。「コロナに屈せず、一度限りの人生を謳歌しろ!」とのエールをいただいているようです。



しかしながら大幅な円安に加えロシア侵攻、コロナによる経済不況でネパールの人件費、渡航費等が高騰、予算オーバーの状況です。GHT は 120 周年記念事業の大きな柱となる計画ですが、第 1 ステージに続き第 2 ステージにも「低山王国」の千葉支部から参加者ができることは画期的なことです。つきましては藤井さんが参加する GHT に皆さんの絶大なるご支援をお願いする

次第です。何卒宜しくお願い致します。

(募金方法は会報「山」8月号に同封されています。会友の方は三田事務局長に問い合わせください。)

藤井正善さんについて千葉支部初代支部長の篠崎仁さんからメッセージが届いておりますのでご紹介致します。

「GHT 第 2 ステージに千葉支部から松田支部長に続いて藤井正善さんが参加することになりました。日本山岳会ならではのビッグプロジェクト、当支部にとっても大変有意義なことと喜んでおります。

2006 年が押し詰まったころ、私は委員会ルームで当時の会長、副会長からひざ詰めで千葉支部をつくってこれとの懇請を受けました。まったく経験のないことで戸惑いましたが、理事会の帰り総武線車中で、藤井さんに新支部設立の協力をお願いしました。藤井さんは当時企業のトップとしてまた日本山岳会きっての一流アルピニストとして超繁忙の毎日でしたが、快諾いただきました。おかげをもって、最短の準備期間で 2007 年 6 月には無事設立総会を開催できました。副支部長を引き受けていただき、支部運営につき大所からの適切なアドバイスをいただき順調に会務を遂行することができました。藤井さんは支部設立数年後に順調な支部運営を見届け、海外事業を立ち上げるため日本を離れました。冒頭に松田支部長の協力お願いの言葉がありますが、重ねて私からもご協力をお願い申し上げます。藤井さんには、実り多いプロジェクト遂行からお帰りになったらぜひ千葉支部行事として講演いただけることを今から楽しみにしております。」 (篠崎仁)

[目次]

・山行記録	p 2~3
残雪多し・焼石岳、ゆっくりと涸沢へ、御座山で山頂独占	
・山の日講演会は大盛況（房総の山復興プロジェクト主催）	p 4
・自然学クラブ巡検一大坪山の風衝地形、不思議だらけの富士山 5 合目	p 5
・山行記録	p 6~7
布沢大滝沢と蒲生岳、真夏の東黒沢で水浸し、予定変更で編笠山	
・大嫌いなことが大好きに 宇津木仁典	p 7
・鹿野山古道 山口文嗣	p 8
・山行記録	p 8~10
屋久島縦走・試練の後に絶景が、土沢・三ノ沢で沢登り、岩稜の奥穂高岳に挑む、雨・霧の入笠山	
・こんにちは 平野直子	p 10
・あの日の山 劔岳・八ツ峰 I 峰に張ったテント 節田重節	p 11
・ウォーキングクラブ活動報告 宇津木仁典	p 12~13
「鹿嶋・神の道」と「潮来・あやめの道」、かずさ国府のロマンを訪れて、鋸南町・山里と海里の香りを吸収して	
・支部山行の予定	p 13~16
・事務局からのお知らせ	p 16

残雪多し 焼石岳

羽藤 美代子

山行日（天候）；6月6日～9日（雨、最終日晴れ）
 参加者；L羽藤美代子、吉永英明、山田紀夫、吉田望、小川和敏（5名）
 タイム；3日目：焼石岳登山口 6：30→銀名水小屋 10：00→頂上 12：00→登山口 16：30

天気予報通りの雨、水沢江刺駅からレンタカーで五葉山登山口へ。風も冷たくて寒い。ツツジの花の中の登山を楽しみにしていたが、今日の登山は諦め次回の楽しみに。遠野、釜石大観音を観光して宿の大船渡温泉へ。翌日は観光。荒々しく波しぶきをあげる碯石海岸から陸前高田へ。東日本大震災被災地の現状と復興状況を少しでも知りたくて。津波伝承館での見学、語り部ガイドと共に、震災遺構の説明や、高台に移転した住宅のある展望台から、高田松原の復興状況の話を聞く。行政への不満も織り交ぜながらも、その土地で生きていく人の坦々とした姿があった。新しく植えられた4万本の松の苗が大きくなる50年後の孫の時代にはどんな風景なのだろうか。奥州市に向かい、茅葺き日本一と言われる大屋根の法堂の正法寺へ。

3日目焼石岳登山。今日も朝から雨、地元に住む親戚夫婦の先導で、雨と雪解け水の登山道に苦戦しながら、銀名水小屋にたどり着き一息入れる。風がないので雨くらいだったら頂上まで行けると。今年は10年

※個人山行

ぶりの残雪の多さとかで、小屋からは大雪渓の連続。

持ってきて貰った縄を靴底に巻いてみると滑らずあんばい良かったようだ。頂上からの眺



望は無かったが姥石平は、一面ハクサンイチゲが咲き乱れて、ヨツバシオガマ、雪割小桜も。東焼石岳までのお花畑は見事だった。下山中雪渓の斜面でyさんの見事なピッケルさばきを見た。いっこうに止まない雨の中皆無事に下山。登山開始から下山まで10時間。夏油温泉に着いてすぐ熱めの温泉に入り、冷えた体と疲れ切った足をいやした。

4日目の最終日ようやく晴れた。秋田道から横手の増田町の内蔵を持つ街並み観光へ。今も暮らす家主が中を案内して説明してくれる。昔懐かしい暮らしに触れられる心落ち着く町だった。稲庭うどんが美味しかった。まだ行くがらね～

50歳未満は入会金と年会費2年間分を免除します！

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「お試し山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費（正会員1,500円または会友3,000円）を免除します。

ゆっくりと涸沢へ

小川 和敏

※個人山行

山行日(天候) ; 6月11日~14日(ほぼ晴れ)

参加者 ; L 節田重節、安間繁樹、上村紀子、
能美勝博、香高真奈美、吉田望、
吉永英明、小川和敏(8名)

タイム ; 1日目 : 上高地 13:00→横尾 16:30

2日目 : 横尾 8:30→涸沢 13:00

3日目 : 涸沢 9:00→横尾 11:30→上高地
15:00

とにかく、今回の山行は「ゆっくりと」がモットー！初日は上高地から横尾までほぼ平らな道を3時間半、2日目は横尾から涸沢まで4時間半、3日目は涸沢から上高地まで6時間ほど。梅雨時で、予報は曇り時々雨だったのに、ちょっと降られたのは横尾山荘に着いてからだけと誠にラッキーでした。

2日目は信じられないくらいの好天で皆でビックリ。ニリンソウ、エンレイソウほかの花々に迎えられる。横尾から本谷橋を経て、Sガレ辺りからは残雪が有りメンバーによっては軽アイゼンを着けて涸沢へ向かいます。いつものことながら、涸沢ヒュッテが見えてからがなかなかの道のりで何とか13:00過ぎに到着。抜群のパノラマ風景に見とれつつ早くもビールで祝杯です。このビールが美味かった!!! 涸沢の夜を堪能。

3日目は横尾山荘で名物のラーメンをいただいた後、上高地へ。山岳研究所を見学させてもらった



後、西糸屋山荘で打上げです。上高地も涸沢も、梅雨時なので信じられないくらいに人が少なく、涸沢ヒュッテのテラスなど貸切状態でした!・・・秋にまた来るかな? でも、紅葉の時は人が多いか!?



御座山で山頂独占

渡部 孝雄

山行日(天候) : 6月17日~18日(曇りのち晴れ)

参加者 : L 小川和敏、平出正美、渡部孝雄(3名)

タイム : 栗生登山口 9:30 → 不動の滝 10:25(休憩 15) →

御岳神社 11:40 → 避難小屋 12:10 → 頂上 12:15

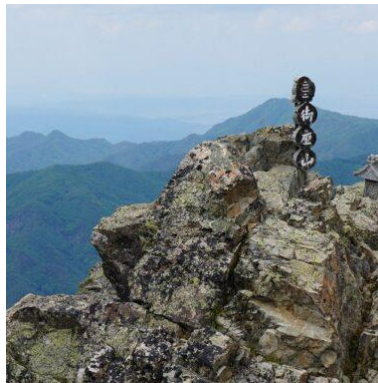
(昼食休憩 45) → 避難小屋 13:05 → 御岳神社

13:20 → 不動の滝 14:05 → 栗生登山口 14:50

原木中山駅を6時に出発し、外環→関越→上信越→中部横断道を通り、栗生登山口へ車で行くが、未舗装区間が続くため注意が必要。

9時30分登山開始、序盤は沢に沿って登って行く。しばらく行くと不動の滝があらわれる。冬になると凍結して見事な氷瀑になるようです。そこで滝を見ながら休憩する。ここからは沢から離れクサリ場へと向かう、クサリ場は、思っていたより急で長い。登って少しの所にアズマシャクナゲの群生地があるが時期がすぎているため花は少ない。小ピークに祠がありそこを過ぎると下りのクサリ場があらわれる。そこを下り登り返すと避難小屋が。窓からのぞくと中はとても綺麗である。そこから2分で山頂にいける。

12時15分に登頂する。山頂は開けており、八ヶ岳、南アルプス、奥秩父、浅間山、北アルプスまで全部見える。山頂は狭く尖った岩がゴツゴツしており注意が必要。山頂に平らの所を見つけ、遠くの山々を見ながらゆっくりと昼食を



とった。

13時下山開始。クサリ場を無事に通過し登りで見過ごしていた、「ん」の字の



倒木をくぐり運が開けた? 不動滝で小休止して、栗生登山口に2時50分下山。地図通りのコースタイム。

宿泊する川上村の岩根山荘へ出発する。風呂上がりにおいしいビールを飲むため小さなコンビニに寄った。1時間ほどで宿に着く。宿に着く途中、尖った岩山が何本もそびえ立った山並みにビックリ。屋根岩とのこと。「日本のヨセミテ」とも言われ、海外からも注目されているようです。宿のお風呂は、温泉ではないが露天風呂もあった。風呂上がりのビールは最高、宿も最高でした。

次の日、金峰山荘の方へ偵察に行く。金峰山荘に入る前にゲートがあり通行料を取られる。中に入ると駐車料金も取られるらしい。道路沿いにヒカゲツツジの群生地があり綺麗! 来た道を千葉へと帰る。途中、佐久市に寄り、びんころ地蔵・旧中込学校(重要文化財・国史跡)を見て、そばを食べて帰路につく。

● 「山の日」 講演会は大盛況 （房総の山復興プロジェクト主催） ●

8月11日（木）

2019年の台風で甚大な被害を受けた房総の山の復興活動を多くの皆さんに知ってもらおうと企画した「山の日」講演会は「大入り満員」で成功裏に終えることができた。

今でも毎日のようにBSで放映されるグレートトラバースの本人が千葉市民会館に登場するとあって、開場前から多くのファンが集まった。=写真・「大入り満員」の会場=

プロジェクトメンバーから房総の山復興活動を紹介のあと、7年かけて501座、3万6千キロを人力のみで踏破した田中陽希さんが登場。指の骨折、2度の大地震、コロナ禍での3カ月中断を乗り越え、利尻岳で最終ステージを迎えたが、長い山旅の道中で知り合った方々とのふれあい、熱い人情を通しての話は、テレビには映ることのない貴重な裏話であった。グレートトラバースで成長していく田中陽希さんの真っ直ぐで正直さに溢れる話を聞いた聴衆は新鮮な感動と一歩を踏み出す勇気をいただいたようだ。=写真・人間味溢れる講演=

今回のBig講演会が無事に開催できたのは、協賛・後援・協力をいただいた方々のおかげです。改めて感謝申し上げます。また、講演の企画から準備、運営に携わった房総の山復興プロジェクトのスタッフの皆さん、本当にお疲れさまでした。3団体の結束力は大したものです。=写真・講演会を支えたプロジェクトのスタッフ=

これからもよろしく!!!
(松田 宏也)



*房総の山復興プロジェクト= (千葉県山岳・スポーツクライミング協会、勤労者山岳連盟、日本山岳会千葉支部)



陽希さん登場!



サインをゲット

自然学クラブ巡検

三木 雄三

●第14回巡検 大坪山の風衝地形

6月18日(土) 曇り

参加者：宇津木仁典、黒住清美、塩塚生二、高橋琢子、
山口文嗣(L)、三木雄三

富津の大坪山と言っても、「どこの山？」と思う人がほとんど。「東京湾観音」と言えば、「あそこだったのか」と分かるはず。「山」の字が付いてもピークは無く、千葉県のマスコットキャラクター「チーバくん」の下腹あたりにあたる約2キロの海蝕崖がそれ。東京湾からの強い西風で背丈の高い樹木は育たない特殊な地形のため、「風の衝撃」という意味から地学では「風衝地形」と呼ぶ。

午前9時に内房線大貫駅に集合。今回は東京湾の郷土史に精通している山口さんの案内でスタート。駅から南下し、国の史跡に指定される弁天山古墳に立ち寄る。「奈良県室宮山古墳など大王クラスの古墳に匹敵します」と山口さん。海が近く、温暖で食べ物が豊富だったことで古代から人々が暮らしていた。古墳から見えた海岸砂浜に足を運ぶと、代表的な海浜植物のコウボウギが群生していた。磯根崎の崖に取りついたのが午前10時10分。地元の漁師

●第15回巡検 不思議だらけの富士山五合目

7月23日(土) 晴れ

参加者：鎌谷繁、黒住清美、香高真奈美、高橋琢子、
羽藤美代子、平出正美、廣村恵美子、松本さゆり、
茂呂よしみ(東京多摩支部)、山口文嗣、吉田望、
吉野聡、渡辺孝雄、三木雄三(L)

富士山は、1万1000年ほど前に大爆発を繰り返す古富士火山から、小爆発と溶岩の流出を交互に繰り返すタイプの新富士火山に変化。しばらく活動を止めていたが5000年前から活動を再開。高さ、体積とも断トツの日本一の巨大火山となった。しかも、ほかの火山ではみられないように山全体が火山岩で出来ている。

そんな富士山の森林限界には不思議なことが多い。ほかの山に比べて森林限界が低く、森林限界をつくる樹種がカラマツであること。さらに森林限界の上にハイマツが無いことなどだ。近くの南アルプスではシラビソ、オオシラビソの針葉樹が標高2800メートルあたりまで達しているのに「なぜ」だろう。

森林限界になっている標高約2300メートルの「お中道」へは、御庭バス停から標高差100メートルを登る。ガラガラしたスコリア斜面ではカラマツの幼木が芽生え、成長の過程を見ることが出来る。大きく曲がりくねったものは、このあたりに最初に育ったパイオニアで、自然界の強い風、

が信仰した磯根浅間神社へ向かうが、激しい藪が行く手を阻む。「植物観察だと思っていたが、こりゃひどい」と半袖姿の宇津木さんが嘆いた。急坂を登り、どうにか富士塚のある神社に到着。みんなで手を合わせ、今日の無事を祈ったが、なかなか甘くない。この先も猛烈なササに前進を阻まれ、磯根三角点を踏んだのは11時を回っていた。

「涼しいねえ」と誰もが口にした。海から冷たい風がビューンと崖に吹き上げる足元にはマルバシヤリンバイが育ち、風に吹かれて枝のすべてが内陸側に傾いた珍しい樹形の姿を目にし、「これが風衝地形」と苦戦を忘れ一同感激＝写真＝。

ヤマユリの咲く原っぱで弁当タイム。黒住さんが桑の実を見つけ、「甘くておいしい」とはしゃいでいた。その後も藪と悪戦苦闘。観音様の優しいお顔を拝んだのは午後1時半になっていた。



雪の重みに耐えた姿。「頑張った」と一同感激。河口湖や西湖はもとより大展望はご褒美。「素敵だね」…。

ダケカンバの森とガレ地、シヤクナゲの森とガレ地が交互に現れ、雪崩の道筋では森林限界が富士スバルラインより下っている。しかし、西に進んで大沢崩れに近づくと、コマツガヤシラビソの原生森は2800メートル付近まで上昇する。スコリアの斜面に登ると、そのうねりが良く見える＝写真＝。

富士山地図を広げると、北西から南東にかけて大室山、幸助山、奥庭といった側火山が富士山頂を越えて一直線上に宝永山に延びる。マグマ活動の活発な「弱線」で、これに対し、対角線上には側火山の無いことが分かる。山の年齢のまだ若い富士山は土壌が未発達なため植物は育たず森林限界は低い、マグマ活動が穏やかな部分は気温に比例して森林限界が上昇したと考えられる。お中道は、シヤクナゲの季節だった。コケモモのアイスも絶品。東京から参加した茂呂さんからは「気になっていた富士山の不思議が分かって楽しかった。また千葉支部の活動に参加したい」と嬉しい一言を頂いた。



布沢大滝沢と蒲生岳

三田 博



山行日/天候：7月2日（土）晴れ、3日（日）晴れ、
4日（月）曇のち雨

参加者：L 三田博、山口文嗣、小川和敏、三品京子、
宮崎美智代、三田芳江（6名）

初日は只見への移動日、途中の駒止（こまど）湿原でのんびり散策。ワタスゲの白、ニッコウキスゲの黄、ヒオウギアヤメの紫のコントラストが素晴らしかった。宿泊は只見・布沢地区の廃校になった小学校を改装した「森林の分校ふざわ」。エアコンも無く、網戸の隙間から侵入してくる虫に難儀した。昼は暑かったが夜はひんやり、10度以上の温度差になったらしい。

2日目は布沢大滝沢。沢登りではなく癒しの沢歩きコースだ。高低差の無いブナの森をナメ床が延々と続いていた。今回は魚留の滝まででピストン。ブナ林がとても魅力的で、紅葉シーズンにまた訪れてみたい場所だった。

最終日は、会津のマッターホルンこと蒲生岳（828m）に登る。低山ながら登山口から急登が続き、頂上直下はかなりの高度感。毛虫の大発生で、灌木を掴むのにも気を使う。



山頂では雨が降り出し、下山した途端に土砂降り、急いで車に乗り込む。途中、源泉かけ流しの深沢温泉むら湯で汗を流して帰った。



真夏の東黒沢で水浸し

竹内 進

山行日/天候：7月30日（晴）

参加者：L 三田博、小川和敏、三品京子、宮崎美智代、
三田芳江、竹内進（6名）

タイム：白毛門登山口駐車場9:45→ハナゲの滝10:20→
白毛門沢出合11:05→10mの滝11:50→駐車場14:40

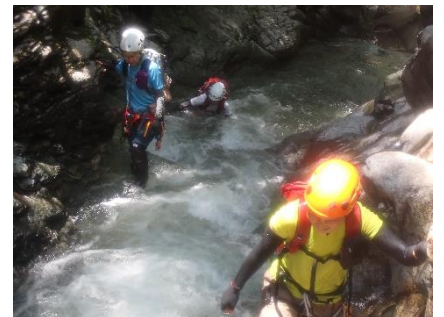
白毛門登山口駐車場で沢の準備をして東黒沢へ。左岸の踏み跡を進み入溪。閃緑岩の緻密で固く白っぽい岩床を滑り台のように流れる水は連日の雷雨で平常時の3倍程度はありそう。キャニオニングの大勢の子供達に会う。安全の確保にはインストラクターのプロ技量が不可欠ではと思いながら先に進む。最大の滝、ハナゲの滝は大水量ですごい迫力。右岸を中断まで登り、通常ルート



には水量多く渡れず上段は高巻く。ハナゲの滝は鼻毛の滝と書き、珍妙な名を調べると、白毛門の山頂から東黒沢に流れ下る白毛

門沢の上部にジジ岩、ババ岩と呼ばれる二つの岩が門のように立っていて（登山道の途中から見えます）、これが白毛門の名前の由来、そのジジ・ババの鼻毛の当たりから湧き出して来た滝だからとのこと。こちらの信憑性は？

流れの水勢が強く、渡る時は膝下程度の水深でも踏み出した足を下流に持って行かれるので、目標より上流側に踏み出すようにしながら進む。沢幅一杯の滝となっている白毛門沢を左に見て、連続するナメを登る。10m弱の滝を登り、ここを終点として引き返す。腰まで水に浸かったり、泳いだメンバーも居たりで、しんどいながらも晴天の夏の沢を満喫。心配した雷雨に会わず駐車場に戻る。



予定変更で編笠山へ

上條 誠一郎



山行日/天候：7月17日(晴)～18日(晴)
 参加者：L松田宏也、小山俊隆、上條誠一郎(3名)
 タイム：17日/観音平 11:30→雲海 13:00→押手川 14:45
 →青年小屋 16:45
 :18日/青年小屋 7:35→押手川 9:25→雲海 10:25
 →富士見台 11:05→観音平 11:40

当初は7月の三連休に山形県にある鳥海山に登る計画があったが直前になって東北の天気是三連休中、大荒れだと知り急遽八ヶ岳の編笠山に変更した。

登山口の観音平に着いた当初は高度が高いこともあり涼しいと感じていたが歩き始めて時間が経つうちに蒸し暑くなってきた。雲海に着くとアブが大量に発生しており払っても払っても次々と刺しにくるのでとても鬱陶しかったが、押手川に近づいてくるとアブの数が減ってきて心地よく登れるようになってきた。この日は八ヶ岳が晴れで他の山域は荒れるとなっていた予報が適中し、ときどき曇りながらも甲府盆地に広がる街並みを見下ろすことができとても綺麗だった。

ようやく青年小屋につき水を汲んでから一息ついてると雲をかぶっていた富士山が徐々に姿を現した。その日は山頂まで登らず小屋でのんびりすることに。小屋で夕食のあと外に出て夜空を見上げると満天の星空が広がっていた。



次の日は僕だけが日の出を見るため4時に起きた。富士山の方を見ると昨日よりも一回り大きく赤く染まって

いる富士山がとても雄大で綺麗だった。朝食まで時間があってので編笠山までピストンをしてきた。山頂からは富士山や南アルプス、奥秩父、奥にはうっすらと北アルプスが見え、諏訪盆地や甲府盆地、諏訪湖も一望することができたが、赤岳や権現岳、阿弥陀岳は雲の中で見る事が出来なかった。

小屋に戻り撤収の準備をして朝食をとり少しゆっくりしてから下山を開始した。雲海までは同じ道を下り雲海からは分岐を右に折れて下った。雲海では登りの時と同じくアブが湧いてきてとても鬱陶しかった。富士見台のベンチの辺りまで下るとアブを食べる赤トンボがいたのでアブはほとんどいなくなった。もうしばらくすると赤トンボが高度を上げてくるので雲海あたりでもアブがいなくなるそうだ。笹原をトラバースしていくと観音平に着いた。

今回の山行はとても天気に恵まれ素晴らしい山行となった。次に青年小屋に泊まる時は流星群を狙って泊まりに行きたい。



● 大嫌いなことが大好きに…… ●

ウォーキングクラブ世話人 宇津木 仁典

「大嫌いなこと」が「大好きに」なって、今も山に係ることが楽しく続いていることには、何故か驚きでもあり不思議でもある。過去を顧みると、最も嫌いな業務に辞令があったり、最も嫌いな遊び(山歩き)にも誘われた。そのどちらも「きつい・きたない・きけん」等があったので、できれば避けたかった。

しかし、困難な現場に遭遇して、完遂して歓喜充実し感涙は、経験した人のみ知り得る。登山では、ある日に社会を展望して世直し業務？をしているある人から、「山登り、付き合えよ」の言葉！があった。「えっ、嫌だなあー」できれば逃げたかった。日頃から「たのむ、わかった、まかせて」の相互信頼の協力関係にあったこの人からの誘いには、断れなかった。小生の育った環境は、山畑地の海拔は同じく低地であって、木々が生い茂っている地を「山」だと認識し「登山」については全く無知であった。誘いを受けて初の山歩きは、不格好な姿で県内の低山からはじまって奥多摩、丹沢から新潟への山々と次から次へと誘われて、「登山」の関心が高まった。気付けば南、中央、北アルプスの山々の高山を歩いて山仲間と歓喜していた。雄大な山々には「そんな小さなこといいよ…」と教えも受けて、心身もおおきくなり、「山、大好き人間」に変貌した。登山は、他の趣味と異なり他者と競うことなく、四季折々雄大な山々では「花鳥風月」を満喫して、元気いっぱい口も滑らかになっていた。今は、心身の衰えをから県内外のウォーキング「実施済みのウォーキングはホームページに掲載」を楽しむようになった。山歩きは続けることで心身の健康維持にも良く贅沢な遊びである。余計なお節かなあー。馬齢を重ね余生を歩くことが続いき楽しい生活ができていることは、ある日にある人からの誘いがあったから…。このことは忘れない。そうだ、10月実施予定のウォーキング「懸垂型モノレール世界最長(15,2km)軌道下を歩こう」計画を策定しよう



● 鹿野山古道 ●

● 第4回 日時；12月12日 参加者15名

前回と同じく鹿野山神野寺からスタート。今回はNTTの無線中継所から南西に延びる尾根の調査に向かう。バス道路をマザー牧場の方に少し戻り、無線中継所手前を左折する。少し進んだ右側に戊辰戦争で旧幕府軍側について戦死した上総国請西藩士の魂を鎮める招魂之碑が建っている。碑面の文字は薄くなって良く読めないが、説明板によると榎本武揚が揮毫している。



明月院鹿野山菩提地という霊園を過ぎ山道に入る。林道鹿野山線（関東ふれあいの道）を横切って本村に向かって下って行くと途端に倒木に道を塞がれる。3年前の台風被害のためだが、そのまま放置され荒れている。ジャングルジムの木登りのような状況になってしまい、下降はあきらめ一旦林道鹿野山線に戻り、林道を東に進む。九十九谷からゴルフ場東側の道を白鳥峰に登り返そうとしたが、こちらも倒木が散乱していて登れない。仕方なくまた林道を西へ戻り鹿野山トンネルから前回と同じゴルフ場西側の山道に上がり、神野寺に戻った。今回の調査により2019年の台風15号、19号による被害が想像以上であったことが実感された。

● 第5回 日時：1月16日 参加者11名

今回は木更津から鹿野山を通って嶺岡牧へ至るルートの調査である。君津市史（2001年9月君津市史編さん委員会編）によると、天明元年（1781年）幕府野馬奉行斉藤三左衛門の用人が嶺岡牧への通行の際、鹿野山越が便利であるということで房州嶺岡往還が開設されたという。これにより木更津から三直・六手村、鹿野山から関村を経て嶺岡に向かう街道が開設されたという。



鹿野山マザー牧場から県道93号を西へ向かい、鹿野山禅林佛母寺入口を左折し、関尻方面へ向かう山道に入る。相変わらず倒木は多いが比較的歩き易い道を下り、関尻の西で国道465号に出る。関尻からは県道88号に入り関の姥石、関の犬岩を調査する。関の姥石は巨人の姥が運んできたという直径2.4mの大岩である。関にあった関所の門柱の基礎石という説もある。関の犬岩は湊川の河中にある巨大な奇岩で、大分崩壊がすすんでいるが、犬の形に似ているので犬岩といわれている。（山口 文嗣）

今年も11月5日（土）から古道調査が始まります。第6回です。

屋久島縦走 試練の後に絶景が

三品 京子

※個人山行

山行日/天候；7月22日～24日（一時雨、快晴、晴）
参加；CL三品京子、SL小川和敏、今井貴朗、宮崎美智代
タイム；1日目：ヤクスギランド8：00→石塚小屋15：30
2日目：石塚小屋6：00→宮之浦岳11：00→
永田岳14：00→鹿之沢小屋15：00
3日目：鹿之沢小屋6：00→永田登山口15：00



梅雨前線が停滞する中、屋久島入り。縦走1日目はヤクスギランドからハイキング者進入禁止の花之江河歩道に突入。数年前の台風の傷跡が残っていてスタートから廃道に

近い登山道で、しかも途中の雨で20分ほどの停滞を余儀なくされる。多くのアップダウンを繰り返し、歩けど歩けどなかなか着かない。バックパックは重い。ようやく石塚避難小屋が見えて、皆一斉に「小屋だー！」と叫んだ。本当に辛い1日が終わった。



しかし、神様は試練の後にご褒美をくれました。2日目は雲一つない晴天の中を歩く。まずは、花之江河から宮之浦岳へゆっくりと稜線を進む。そして、頂上からこれからの永田岳の絶景に大感動。頂上にいたガイドの方もこれほどの天候・眺望は今年一番との発言があった。焼野三叉路に降り立ち、いよいよ永田岳を目指す。頂上手前で振り返れば、裏宮之浦岳の姿がクッキリと！本当にこれも見事な眺め！頂上に立ち、この上ない感動に浸りつつ鹿之沢避難小屋へと。



3日目はまたもや試練が！鹿ノ沢から永田までの永田歩道も廃道に近い感じで、何回もルート探しで停滞をする。想定外の藪こぎと、おまけにヒルとの戦いもあり、何とも印象に残る屋久島縦走登山となりました。今回の縦走は、4人が4人とも自分を褒められるものだったと確信しています

土沢三ノ沢で沢登り

宮崎 美智代



山行日/天気:8月27日(晴れ)

参加者:L 三田博、三品京子、宮崎美智代(3名)

タイム:三国峠 P7:50→東電の鉄塔巡視路入口 8:50→

三ノ沢橋 9:30/9:50→三国林道 12:10/12:30→

鉄砲木ノ頭 13:30→三国峠 P13:50

秋田・桃洞沢の予定が最近の豪雨で目的地までの道やその付近の林道が通行止めの為中止となり、代わりに西丹沢に日帰りの沢登りとなった。新しくなった三国峠駐車場から三国林道へ入る。東電の鉄塔巡視路入口まで歩き、やや急斜面のニノ沢三ノ沢中間尾根を下った。途中2か所送電線鉄塔で位置を確認できたが、リーダーの地図とGPS確認がなければ入渓地点の三ノ沢橋にたどり着くのは難しいと思われた。

三ノ沢橋で沢の装備をして入渓するがすぐに堰堤。高巻きをした後は小滝とゴルジュの連続。小滝とはいえ滝壺近くでも意外に深く腰付近まで水に浸かったり、へつる場面では緊張しながらもシャワークライミングを楽しんだ。二股からの後半は花崗岩のナメに癒された。そしてクライマックスの3メートルほどの滝でロープを使い安全に登攀する為の講習をして頂いた。最後堰堤を2つ高巻きし遡行終了。三国林道までまた急斜面を登り登山靴に履き替えた。まだ時間に余裕があったので国境尾根を登り鉄砲木の頭で山中湖の景色を眺め三国峠の駐車場へと戻る。



岩稜の奥穂高岳に挑む

三品 京子

山行日(天候):8月5日(晴)6日(晴)7日(晴)

参加者:L 今井貴朗、小川和敏、上條誠一郎、宮崎美智代、三品京子

タイム:1日目 上高地 5:30→横尾 9:45→涸沢 14:00

2日目 涸沢 6:00→ザイテングラート 7:00→穂高岳山荘 8:20→奥穂高岳 9:30→穂高岳山荘 10:45→ザイテングラート 12:00→涸沢 13:00

3日目 涸沢 6:00→横尾 8:00→上高地 11:00

1日目 夜行バスで上高地に到着。途中の穂高神社奥宮で安全祈願をし、明神館で朝食休憩。徳沢では名物のソフトクリームをいただき、次の横尾山荘でも名物のラーメンで早めの昼食となった。登山に来たのか観光地巡りをしているのか?・・・横尾大橋を渡り針葉樹林帯の中を歩く。

瀬音が聞こえてくると本谷橋に到着、汗と喉の渇きで本当の休憩をとる。ここから急登が始まり足の進みも遅くペースダウン、Sガレから木々の間に今夜の宿、涸沢ヒュッテが見える、誰かが生ビールが待っていると頑張り始めた。1時間後テーブルには生ビールと冷え冷えのジュース、明日の晴天を願って乾杯となった。

2日目 5時、涸沢カールから奥穂高岳・北穂高岳が赤く染まるモルゲンロートを見る事が出来た。朝食を済ませ今井リーダーからコース説明・注意点を聞きストレッチを済ませ、まずは涸沢小屋を抜けザイテングラートに向かう。



昨日テラスから眺めていた場所を登っている、浮石が多いので一歩ずつ慎重に登る。核心部の鎖場に梯子もクリアし穂高岳山荘にコースタイムで到着、ここまでは良いペース。山荘で休憩し目の前に迫る岩の壁、いきなりの急な梯子と鎖をクリアし続く岩場を登り、進むこと一時間。山頂手前の見晴らしの良い場所で休憩をとる。正面にはナイフリッジの先にジャンダルムが見て取れる。山頂には人影が有り天使の看板を触っているのだと教えてもらった。



最後の稜線を歩き穂高の主峰奥穂高岳に登頂。狭い山頂は登山者で大賑わい、方位盤に皆でタッチシャッター!下山は更に足元に注意するようにと、全員気を引き締めてまずは穂高岳山荘へ下山、早めの昼休憩をとる。ザイテングラートでは岩の隙間に咲く花を楽しむ余裕ができ、難所を通過し帰りはパノラマルート石畳を歩き涸沢ヒュッテに無事下山出来た。早々にザックを下ろし祝杯をあげた。山を見上げながら「本当に登って来たのか?」と、夜まで何回聞いたことか!



雨・霧の入笠山

黒住 清美

山行日/天候：9月3日（雨）

参加者：CL 三品京子、小川和敏、鎌谷繁、高橋琢子、黒住清美（5名）

タイム：ゴンドラ山頂駅 10：40→入笠湿原 11：10→入笠花畑 11：30→入笠山山頂 12：00→ゴンドラ山頂駅 13：40

JR 富士見駅から富士見パノラマリゾートの無料シャトルバスで入笠山のふもとまで行き、ゴンドラに乗って標高 1,780m の山頂駅へ。雨降る中 20 分程緩やかに下り入笠湿原に到着。青紫色のエゾリンドウをはじめ黄色いアキノキリンソウなど色とりどりの可憐な花々に癒されながら木道を進んだ。湿原の縁から 20 分程登ると、今度は山の斜面に広がる入笠花畑。ここでは水色のマツムシウや白い穂状のサラシナショウマが印象的。

さらにカラマツとダケカンバの林を 30 分程登って標高 1,955m

の山頂へ。一瞬雨が止んだところで記念写真を撮った。山頂から 360° パノラマの眺望…は霧の中で心の眼で見た一方、足もとの緑色岩は雨に洗われて鮮やかに輝きその美しさに魅せられた。折り返して帰路につき、林内のサルオガセや湿原上部のワレモコウの群生に一同驚嘆の声をあげつつゴンドラ山頂駅へ戻った。雨と霧にけふる初秋の入笠山はとても静かで幻想的な山でした。



♪ こんにちは ♪

初めまして、8月に首都圏支部から移籍しました平野直子と申します。千葉市在住です。県内3山岳団体共同事業の「房総の山復興プロジェクト」に関わらせていただく中で、JAC 千葉支部の皆様（特に松田さん）に出会い、移籍のお誘いを受けました（引っこかりました、笑）。



本格的な山歴は、30 数年前に頑張っていたアドベンチャーレースで、クライミングと氷河セクションがあり、登山経験を積むために冬山講習会に参加したところからです。以来ずっと何らかの形で山に携わっています。

2003 年、津田沼のヨシキスポーツで社長に声をかけられ、国体山岳競技千葉県代表になり、5 年ほど縦走（12 キロの規定重量を背負って山を走る競技）とクライミングの選手をしていました。その際サポートしていただいた恩返しに千葉県山岳連盟（現千葉県山岳・スポーツクライミング協会）の運営に参加、現在は日本山岳・スポーツクライミング協会 指導委員会副委員長として、各種講習を担当しています。普段は主に、ザイルパートナーがいる労山の「ちば山の会」がメインで主に岩、沢、それらを絡めた縦走、及びきのこ山菜山行をしています。特に山の幸

をいただきながらの、沢中焚火山行が大好きです！

これまでの山歴としては、2006 年ヒマラヤチョー・オユー登頂、谷川岳オジカ沢女子 2 人ワンデイ、2022 年春瑞牆新ルート開拓 (ROCK&SNOW95 号掲載) などがあります。

また、コロナ禍でお家時間が増えたのをきっかけに絵を始めました。ゆくゆくは山の景色を現地でスラスラ〜と描けるようになるのが夢ですが、今生で叶うかどうか怪しいです。千葉支部主催のスケッチ会に参加させていただくのが楽しみです。

先日北アルプス赤木沢遡行に行きました。沢は昔と変わらずの素晴らしさでしたが、十数年前より時間がかかり、認めたくないながらも体力の衰えを実感しました・・・とはいえ、これからは安全登山の範囲内で、加齢に抗いながら色々チャレンジしていきたいと思います。みなさまどうぞよろしくお願ひします。



あ の 日 の 山

劔岳・八ツ峰I峰に張ったテント

節田 重節

大学入学早々、授業のオリエンテーションを受けるより先に山岳部の入部願いを書いてしまった18歳の春から60年、1年も休まず山登りを続けてきた。しかし、これだけ山を歩いているにも、「快心の山」と呼べる山行は、なかなかないものである。古い話で恐縮だが、そんな青春時代の思い出話をひとくさり披露したい。

私が入部した年から、山岳部ではちょうど「劔岳長期計画」が始まっていた。4年間、春夏秋冬、もっぱら劔・立山周辺を歩き回ったが、もちろんメインは年末の冬山と3月の春山。早月尾根と小窓尾根、弥陀ヶ原縦断、立山・中央山稜、大日山塊、北仙人尾根、真砂尾根、赤谷尾根などからそれぞれ劔岳の登頂に成功している。そして、この長期計画の総仕上げとして昭和40(1965)年3月、それまで記録のなかった積雪期八ツ峰の完全縦走と劔岳登頂を目指したのだった。

当時、黒四ダムは工事中だったが、間(はさま)組にコネがあったので関電トンネルを通してもらい、黒四ダム直下から黒部丸山を越えて内蔵助平を横断、真砂尾根上のベースキャンプから八ツ峰縦走隊を送り出して、別山乗越あたりで収容しようというプラン。ただし、この計画の一番のネックは、雪崩の恐怖に怯えながらの劔沢横断だ。横断前の3日間ほど、降雪がないことを祈るばかりだったが、幸いなことに3月14日(晴)、15日(快晴)、横断当日の16日も高曇りで、私を含む4人の縦走隊は横断を決行する。

八ツ峰I峰の末端は扇型に広がり、南から北に1稜・2稜・3稜・4稜と、4本の鋭い尾根が突き上げている。一番長いのが3稜で、我々は劔沢を横断して、この3稜に取り付こうというのだ。ハシゴ谷左岸の小尾根から四方に気を配りながら一気に劔沢本流を横断、3稜末端の尾根上に上がってひと安心。後はこの高度差1000mの3稜をI峰頂上に向かってひたすら登るだけ。対岸の1・2稜の上部では、カモシカも必死にラッセルしていた。

幸運は続き、17日も晴れた。「夢にまで見、憧れた八ツ峰I峰。8つの峰が激しく稲妻のように屈曲し、真っ白な雪面と黒々とした岩壁のコントラストがすばらしい。」などと、青臭いことを部報に書いている。I峰の頭はやっとテント1張が張れるだけのまさに絶頂で、こんなすばらしいテントサイトは、まづはかになかろう。大満足の一夜を過ごしたI峰を後に、主目的の八ツ峰縦走を開始する。



VI峰Cフェースの頭で1泊、翌日、八ツ峰の頭に立って縦走を完遂。さらに劔岳本峰で2泊したのち、本番の八ツ峰縦走より



I峰のテントサイト

「I峰の絶頂に張ったテント。右手の稜線が八ツ峰、左奥が劔岳本峰」



縦走隊の4人

「八ツ峰の完全縦走に成功した4人のメンバー。右端が筆者。真砂尾根のBCにて」

厳しかった別山尾根を下降して黒百合のコルで1泊、翌日、無事本隊に収容されたのであった。

そして10年ほどのち、もう一度あのI峰の絶頂にテントを張ってみたいと5月のGW、ほぼ同じルートで八ツ峰を縦走した。またも幸運なことにI峰の朝は快晴で、「快心の山」の感激を再び味わうことができたのであった。

● 「鹿嶋・神の道」と「潮来・あやめの道」

NO4 5月29日(日) 晴れ

参加者 L宇津木仁典、小川和敏、塩塚生二、平出正美、小林ユキ子、黒住清美(6名)

集合時の挨拶に「昨晚、配信のメールには、82歳になり体力の関係で山岳会『ウォーキング会員』を退会する……があった。『世話人も二年過ぎには同様なメール配信する日がきます……かな?』寂しさの想いもあつてか真面目に話したところ、仲間から、何故か笑いがあつた。

この日のウォーキングをふりかえると、距離14.5km、歩数22800歩であつて少々貯筋ができた。空は青一色で快晴、本年初の真夏日になる予報。

鹿島神宮駅前から神の道(鹿島神宮)に向けてスタート。隣県(茨城県)を仲間と楽しく元気よく歩こう。途中で鹿嶋の偉人、剣聖塚原卜伝像に立ち寄り武の神、鹿島神宮へ。大鳥居から関東三大楼門の一つ楼門に到着して同門前では二礼二拍一礼。老木巨木に囲まれた奥参道をウォークして本殿、拝殿、奥宮等へ拝願をした。敷地面積は東京ドーム12個分に相当する広さという。

神宮敷地内から敷地外の北浦の水の中に位置する「鹿島神宮西の一之鳥居」に向かったコースでは、世話人は方向音痴が災いしてナビに障害が発生した。しかし、GPS利用の小川氏からの援助もあり水上鳥居に無事到着した。日本最大級の鳥居(高さ18.5m、幅22.5m)の景観を楽しんだ。鹿嶋市内ウォークの最終地「鹿嶋城山公園」に到着して小休止(昼食)。13:30過ぎに水郷潮来「あやめまつり」地に到着したところ、あやめ園では菖蒲が満開、それに前川では花嫁舟イベントもあつてかなりの人混みであつた。花嫁船を観ている時に誰かが「わたくし、お嫁いを想いだしたわー……」の声が聞こえた。また、酒蔵会社では酒づくり見学の際に、「何処から来た?」の問いに「鹿島神社から潮来あやめ園、旧家磯山邸を經由しウォーキングで来た」ことを告げると「エッ……歩いて!!びっくり!」と驚いていた。有酸素運動で心地よい汗が出た、カロリーを消化し体脂肪も燃焼した、楽しいウォーキングであつた、とウォーキング仲間から耳にした。世話人の喜びでもあつた。



● かずさ国府のロマンを訪れて

NO5 6月4日(土) 晴れ

参加者 L宇津木仁典、高橋啄子、高橋正彦、小林義亮、塩塚生二、鎌谷繁、竹園清孝、黒住清美、平出正美、渡部孝雄、長谷川博(11名)

雹また雷雨が各地にあり、不安定な天気が予想されるなか、週間天気予報の「快晴」は、ウォーキング日の当日だけであつた。予想通り、時折気持ちの良い風もあり、皆さんと楽しいウォーキングを満喫できた。

コースは、市原市内に居住して、当地の史跡、遺跡に知識豊富な高橋さんに依頼したところ、コース策定の御快諾を頂いた。JR五井駅に集合した10人は、高橋さんからコースについて説明をいただいた後にスタートした。

今まで、各地の施設を「見て楽しむ」ウォーキングであつたが、今回は「史跡、遺跡を観て学び楽しむ」ウォーキングである。歩き出してもなくの大通りは「更級通り」という名が付けられていて、直ぐ頭は平安時代にタイムスリップした。奈良の条里制もこのようなものであつたかと想像させる整然と区画割りされた広大な田の先には、聖武天皇が国分寺、国分尼寺を置き、平安時代の国司が置かれたであろう小高い緑の丘が見える。

ここ上総の国は古墳が多い地である。温暖で海が近くて地勢も穏やかな住みやすい地であつたので、古くから有力な豪族が誕生していたのであろう。丘の上の史蹟地域に入ってまず五世紀の円墳である「稻荷台1号墳」へ。この古墳を有名にしたのは、発掘された「『王賜』銘鉄剣」だそう。残念ながら刀剣の文字が少なく、学術的にも研究が進んでいないので文化財としての指定はないが、展開によっては、さきたま古墳群の「ワカタケル大王」(雄略天皇)に仕えた豪族の鉄剣や奈良石上神社に伝わる七支刀(いずれも国宝)に準ずる古墳時代の貴重な史料としての力を秘めている。

この先のウォーキングは、市原歴史博物館(建設は完了して近日開館予定)→スケールの大きい上総国分尼寺跡(聖武天皇の命によって全国60余カ所に造られた国立寺院の1院。寺域は全国最大規模で、資料館のジオラマは一件の価値がある)→祇園原貝塚(縄文後期1000年の村跡)→諏訪神社→平焼窯→神門五号墳(東日本最古級の古墳)→上総国分寺跡(60mを超える七重塔の巨大な礎石が残る)をそれぞれ巡り、ポイントの地では、郷土を愛し誇りを持つ高橋さんから熱心な説明を頂いた。



日本山岳会千葉支部

このコース設定は、発掘にも参加した事がある地元の高橋さんならではの、まとめ役の小生では叶わぬことであった。高橋さんには深謝するしかない。我が山岳会には、有能な人が沢山いる。困ったときには、その人たちのご協力を得ることで、集まりが「楽しくなる」ことも学んだ。

当日の軌跡は添付の通りで、五井出発 10 時で、五井駅に戻ったのは 16 時 40 分、歩行距離 15.4 キロ、消費カロリー 1251kcal だったが、果たして、打ち上げの 1 杯がこのカロリーの消費量を帳消にしていなかったかどうか。



● 鋸南町 山里と海里の香りを吸収して

NO6 6月26日(日) 快晴

参加者 ; L 宇津木仁典、高橋正彦、塩塚生二、新井好夫、黒住清美、柳川しげよ、平出正美、渡部孝雄、丸知子、今井恵子 (10名)

「6月梅雨」どこへやら……今朝も猛暑、汗が流れた。JR 安房勝山駅前に集合した 10 人は、来たからには「猛暑うがない！避けられない直面した皆は、暑さに負けずに粛々ウォーキングスタートした。コースは、山岳会千葉支部の房総 Base へ→佐久間ダム→大黒山→源頼朝上陸地→菱川師宣浮世絵記念館→菱川師宣生誕の地→成田山歎喜院→保田駅(解散)総距離約 12 km であった。

顧みると、安房勝山駅発の赤バスは貸し切り状態で約 1 時間乗車、降車してウォーキングスタートした。「山里コース」は、房総 Base 施設に立ち寄ったところ、山岳会千葉支部支部長(松田氏)から出迎えをいただいた。同支部長は、初参加なされた女性二人を見て開口一番「おっ！！山岳会の平均年齢が若返ったかなあー」素晴らしいお言葉を頂いた。皆は Base 内に各室を全て点検し「あらあー！、きれいだわーよく整っているわー」で高評価であった。

これから約 4 km 先の佐久間ダムまでは、やはり登り坂が続いたが、さすがは「山岳会の遊士」姿勢は申し分ない。佐久間ダムを一周して青バスに乗車して安房勝山駅で降車後、これからは、ながあーいウォーキングコースだ。まずは「大黒山」急峻な坂道や階段を登ること約 15 分展望台に出た。勝山港、浮島等が一望、遠くには富士山が浮かんでいた。また山裾には、房総鯨組の祖(醍醐新兵衛定明)が静かに眠って墓地があった。

海沿いの「海の里コース」は、海香海風を体いっぱい吸収して「源頼朝上陸地」から「菱川師宣世絵記念館」「菱川師宣生誕の地」及び「同墓地『別願院』」を経由した。

途中に立ち寄った浮世絵の確立者、保田町に生誕した浮世絵の祖と称された「菱川師宣浮世絵記念館」では、特別展「頼朝起つ 鎌倉殿と坂東武者たちー浮世絵で見る頼朝挙兵の道のり！」浮世絵展示が開催されていたので、冷房涼風施設のなかで暫し鑑賞した。

皆は猛暑のなかウォーキングでの疲労は、意味ある疲労であっただろうか？「もうしょうがない」覚悟決めたならば、強くなること学んだウォーキングだった。また、もうもうやめたあーを覚えたウォーキングでもあったかなー？



支部山行の予定

● 山行の心得 — リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。

「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山域、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

● 山行の申込み

申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行によって定員を設けています。技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることがあります。

コロナ対策 : 密集を避け、山小屋や休憩所などではマスク着用や消毒など決められたルールに従うようにしましょう。

日本山岳会千葉支部

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	紙面の支部だより参照
松田宏也	
三木雄三	
三田 博	
三田 芳江	
藤木玄三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美智代	

《難度》

- W ウォーキング
 A 整備され歩行2～3時間
 B 歩行5時間前後
 C 歩行7時間前後、一部岩あり体力要
 D 強い体力、岩技術要
 E 高い適応能力要、危険度大



(難度はJAC日本300名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)

個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (10月～3月)

日程	山 名	難度	備 考	リーダー	締切
10月1日(土)～2日	群馬支部・尾瀬合宿				
10月2日(日)	秩父・武甲山	C	表参道コース(車利用)	藤木	締め切り
10月7日(金)～8日	和名倉山	C	秩父の日本二百名山	小川	締め切り
10月9日(日)～11日	鳩待・尾瀬ヶ原・大清水	B	2泊で尾瀬の紅葉をたっぷりのんびり楽しむ	松田	締め切り
10月12日(水)	国師ヶ岳・北奥千丈岳	B	大弛峠から夢の庭園を廻ってのんびり紅葉を楽しむ。混雑を避けた平日登山。	今井	10月2日
10月15日(土)	関八州見晴台	B	自然学：明るい山上集落	三木	10月8日
10月19日(水)	鳴虫山	B	日光駅から徒歩で行ける山	宮崎	10月12日
10月23日(日)	千葉市内ウォーク	W	世界最長の懸垂型軌道下を歩こう	宇津木	10月19日
10月29日(土)～30日	会津・七ヶ岳	C	黒森沢コースから全山周回・民宿泊	三田	締め切り
11月3日(木)	人骨山と佐久間ダム	B	房総 Base にてロープツエルト講習	三田	11月2日
11月5日(土)	鹿野山古道⑥	B	JAC120周年記念古道調査	山口	10月29日
11月6日(日)	檜洞丸	C	マイカー利用	藤木	10月30日
11月12日(土)	相模・石老山	B	自然学:海海底の痕跡	三木	11月5日
11月12日(土)	奥久慈・男体山	C	茨城の名峰・ロープ鎖場あり、マイカー使用	三田芳	11月3日
11月19日(土)	子持山	B	7号橋から	小川	11月10日
11月20日(日)	鹿野山古道⑦	B	JAC120周年記念古道調査	山口	11月13日
11月23日(水)	房総・笹郷山	B	清和県民の森からマイナールート	三田	11月16日
11月26日(土)	4支部懇談会(群馬支部)		会員向け：榛名山または観光	三田	締め切り

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
11月27日(日)	養老溪谷ウォーク	W	絶景の溪谷を歩こう	宇津木	11月22日
12月3日(土)	JAC 年次晩餐会				
12月3日(土)	扇山	C	晩秋の山歩きを楽しむ。	今井	11月6日
12月4日(日)	銚子ウォーク	W	潮風と醤油の香りの道を歩こう	宇津木	11月30日
12月10日(土)~11日	忘年山行		白狐峠から嵯峨山、内浦山県民の森に宿泊、忘年会参加のみも可	三田	11月10日
12月17日(土)	六ツ石山	B	奥多摩三大急登	小川	12月5日
12月17日(土)~18日	赤城山	C	雪山シーズンイン	三田	11月18日
12月24日(土)	房総の沢・袋倉川	C	前回途中撤退したリベンジ	三田	12月17日
12月28日(水)	八ヶ岳 天狗岳	D	詳細は相談(日程調整も可)	松田	12月1日
1月7日(土)~8日	登山道の調査・整備(嵯峨山)	B	房総 Base で新年会(定員10名)	松田	12月25日
1月8日(日)	伊予が岳(東尾根)	C+	道標ありますが熟練者向き	三田	12月25日
1月11日(水)	丹沢鍋割山	B	今年初めての富士山を見る	松田	1月5日
1月14日(土)	房総・三郡山	B	高岩山近く 3郡(天羽・君津・安房)の境界	小川	1月5日
1月20日(金)~21日	クロカンスキー	B	日光光徳牧場	松田	12月25日
1月21日(土)	高尾山6号路	B	初詣を兼ねて断層を歩く	三木	1月14日
1月22日(日)	大野山	B	富士山を眺めながらのんびりハイキング、電車利用	今井	1月9日
1月26日(木)	明治神宮と周辺	W	都心に広がる緑の杜	宇津木	1月19日
1月28日(土)~29日	安達太良山	D	雪山・くろがね小屋に宿泊	三田	12月1日
2月4日(土)~5日	登山道の調査・整備(嵯峨山)	B	房総 Base 泊(定員10名)	松田	1月25日
2月11日(土)	鋸山	B	車力道コース↑観月台コース↓	三品	2月1日
2月14日(火)~15日	浜石岳	B	前泊 由比駅から周回	小川	1月15日
2月19日(日)	大岳山	C	御岳から奥多摩までの日帰り縦走	今井	2月5日
2月23日(木)	千倉海岸周辺	W	早春の花摘みと潮の香	宇津木	2月16日
2月25日(土)	湯河原・幕山	B	電車で「梅の宴」へ	三田芳	2月18日
3月4日(土)	房の大山	B	洲崎海岸0mから登る194mの低山	今井	2月23日
3月4日(土)	金時山	B	自然学:カルデラ地形を学ぶ	三木	2月25日

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
3月11日(土)~12日	登山道の調査・整備 (三石山)	B	房総 Base で頼朝桜を見る会 (定員 10名)	松田	2月28日
3月17日(金)~18日	妙義山中間道	B	前泊 日本三大奇景中腹を歩く	小川	2月15日
3月26日(日)	船橋アンデルセン公園	W	花と緑の観察スポット	宇津木	3月19日

※ W ; ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

お知らせ

《事務局から》

●遭難対策金について

山行の参加者がリーダーに支払う遭難対策金(200円)は、遭難事故などの緊急時のために支部で積み立てられており、救助のための支援や安全対策に使用されます。山行の保険料や山行経費などには使われておりませんので、誤解されないようお願いいたします。

●役員会報告

○6月報告 6月21日(火) リモート(松田、三田、小川、宇津木、今井、山本、山口、甘楽)

◇山行・行事報告 5/21 足和田山と富士樹海、5/22 高水三山、5/28 曲り沢とズミ沢、5/29 潮来と鹿島神宮 W、6/3・4 瑞牆山、6/4 市原 W、6/17 御座山、6/18 大坪山

◇山行行事予定 鋸南町 W、布沢大滝沢、佐原 W、奥秩父の沢など

◇報告・検討事項 山の日講演会進捗と役割分担、会友制度について

○7月報告 7月6日(水) 美弥和 (松田、三田、小川、宇津木、山本、今井、山口、)

◇報告・検討事項 山の日講演会最終打ち合わせとチケット配布、初級登山教室の開催検討ほか

○8月報告 (休会)

●会員・会友の動向

《入会・会員》

NH さん (12397) 千葉市

YI さん (15734) 千葉市

《入会・会友》

DO さん 東京都千代田区

KI さん 茂原市

TM さん 茂原市

KS さん 鋸南町

《退会》

AK さん (6310)



編集後記；コロナの状況が若干ながら好転しているようです。が、引き続き、賢く防御しつつ山行が楽しめればと切に思います。暑い夏が終わり秋に向かいます。秋からは部屋の換気がしにくくなります。相変わらずコロナ対策を徹底することが肝心かと。
津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思えます。会員になると割引があります。
8月にヨシキスポーツの吉野会長がご逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。(小川和敏)